

2017 年度

東邦大学看護学部・河南科技大学看護学部

国際学術交流プログラム

訪問報告書

2017 年 8 月 4 日（金）－8 日（火）

2017 年度

東邦大学看護学部・河南科技大学

国際学術交流プログラム

訪問報告書 目次

1. 訪問者
2. 訪問日程
3. 報告
4. 交流風景

1. 訪問者

横井侑子 高齢者看護学 教授
 小林寅喆 感染制御学 教授
 近藤麻理 国際保健看護学 教授
 村田磨紀 高齢者看護学 助教

2. 訪問日程 (2017年8月4日 - 8月8日) ※敬称略

日期	時間	内容	備考
8月4日 金曜日	16:00	小林 洛陽空港到着、 17:00 新友谊ホテルに到着、宿泊	迎え：赵杰刚
	18:40	近藤、横井、村田 11:20 北京空港着（中国国際空港 CA184 便） 19:45 洛陽竜門駅着（鄭西旅客専用線）新友谊ホテルに宿泊	
	20:30-21:30	夕食：牡丹城澳門食街	赵杰刚
8月5日 土曜日	07:00-08:00	朝食：新友谊ホテル	
	08:00-08:30	第15回国際看護管理学术交流学会開幕式に出席	
	08:30-11:30	中国文化視察：博物館、天堂	日本語ガイド： 魏丽娟
	12:00-13:00	昼食：口福居	史素玲、李变红、 魏丽娟
	15:20-17:50	講演 小林寅喆教授 「インフルエンザ感染症と適切な感染対策」 横井郁子教授 「課題解決型高度医療人材養成プログラム 地域での暮らしや看取りを見据えた看護が提供できる看護師の養成」	通訳：赵杰刚
18:30-20:00	歓迎会：新友谊ホテル	董平栓、牛牧青、 王朝娟	

日期	時間	内容	備考
8月6日 日曜日	07:00-08:00	朝食：新友谊ホテル	
	08:00-09:40	講演 村田 磨紀助教 「急性期病院における病棟看護師の退院支援実践力と共感および倫理的行動の関連」 近藤 麻理教授 「過疎地の高齢者の健康と生き甲斐につながる起業形態の考察 —長野県・小川村の小川の庄の事例より—」	通訳：赵杰刚
	09:40-17:30	中国文化視察：竜門石窟、白馬寺、関林廟、昼食	日本語ガイド： 魏丽娟
	10:00-11:00	董院長らとの会談（小林先生）	通訳：赵杰刚
	11:30	小林 洛陽竜門駅発	見送り：赵杰刚
	18:30-19:30	夕食：友谊賓館	王宏运、贺志勇、 王红伟
8月7日 月曜日	07:00-08:00	朝食：新友谊大酒店	
	09:00-11:30	見学：开元キャンパス、新区病院	
	12:00-13:00	昼食：中和レストラン	袁景茹、王艳艳
	14:00-18:00	市内観光	赵杰刚
	18:30-20:00	送別会：洛陽水席園	王瑞丽、王朝娟
8月8日 火曜日	07:00-07:30	朝食：雅香楼面点王	赵杰刚
	07:20	近藤、横井、村田 洛陽竜門駅発（8:32 鄭西旅客専用線） 羽田空港着（21:30 中国国際空港 CA183 便）	王宏运、王朝娟、 赵杰刚

3. 報告

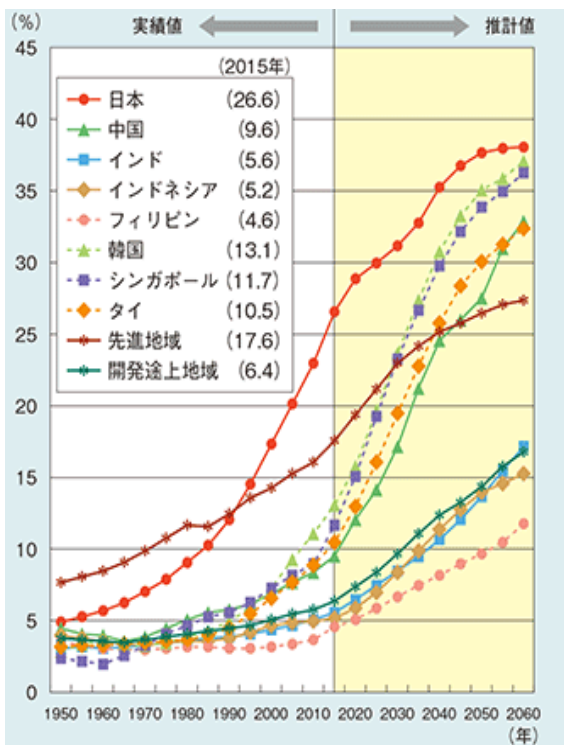
2017 河南科技大学訪問

高齢者看護学研究室 教授 横井郁子

■ 「TOHO いえラボ プロジェクト」の河南科技大学への発信

2017年8月、河南科技大学で開催される国際看護管理学会に参加する機会をいただいた。そこで、本学が取り組んでいる文部科学省 GP 事業について発表した。超高齢社会を迎え、我が国は地域包括ケアシステムの構築、発展を目指している。当然、看護職への期待が高まり、さらなる卒前卒後教育の発展・改革の必要性から、国家予算が組まれたという経緯は、河南科技大学の聴衆もうなずくところであった。図で示したように中国も高齢社会への対応が日々迫られている状況なのである。

大学付属病院を有する本学がどのように地域のシステムに参画し、看護師をはじめとする医療・ケアの関係者達が連携していくか。同じ職種であっても場が異なるだけで、重要視する点は異なる。ま



ずはこの当たり前のことを真に理解するために議論し、その上で、連携のあり方を模索し、学び合う場である「いえラボ」について写真や動画を使って伝えさせていただいた。介護保険制度といった日本の政策背景を知らずしては理解していただけないことも多々あったはずであるが、趙傑剛先生の補足を含めた通訳によってなんとか無事に発表を終えることができた。

河南科技大学とのこれまでの関係において、趙傑剛先生は、まさにキーパーソンである。中国と日本の看護を、そして、東邦大学の看護教育・実践を理解している先生の存在が、関係を円滑なものにしている。「人」の存在がシステム構築と持続可能な運営の要になることは、大学間の関係も地域包括ケアシステムにおける各部門連携も同じであると実感した時間であった。

図：アジア諸国の高齢化率の推移（平成29年度高齢社会白書_内閣府より、）

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1_1_5.html 参照 2018年1月8日

■ 急速に発展する教育環境

河南科技大学看護学部のキャンパスを訪問し、実習室などを見学させていただいた。シミュレーション機器の充実には目を見張るものがあった（写真1）。身体査定、そして、異常の早期発見と迅速な対応ができる高い能力が卒業生に求められていることが推測されたが、それは、大学付属病院である第

一附属医院新区病院その規模・役割を知り、納得するものであった。出会った学生たちもほとんどが ICU などの超急性期での勤務を希望していた（写真 2）。その一方で、漢方医療に関する治療ベッドも実習室には設置されていた。基礎教育カリキュラムには、初歩的なものではあるが東洋医学も含まれているとのことであり、中国らしさを垣間見ることができた。



写真 1 河南科技大学看護学部実習室 1

■ 変わるもの、変わらぬもの

洛陽と聞き、芥川龍之介の杜子春を思い出していた。中国王朝の都市。歴史・文化の街に新幹線で向かう。時間調整のために北京でスターバックス[®]に入り、多くの若者がクリームたっぷりの飲み物を片手にスマートフォンを見つめている光景をここでも見ることとなった。そして、北京だけでなく洛陽も車社会だった。車のほか、電動バイク、そして、乗り捨て OK のおしゃれな電動自転車^①が走っていた。20 年ほど前に経験した



写真 2 河南科技大学看護学部 学生たちとの懇談

上海での自転車ラッシュとは大違いである。帰国後、私の家の地域で電子決済による電動自転車のシェアリングがはじまった。まさか洛陽で予習するとは思わなかった。その一方で、早朝から広場で行われる太極拳、食材豊富な料理と賑やかな食卓は変わらず、私が勝手に願う「中国」は健在であった。

日本と同様の超高齢社会を迎える中国。看護は高齢者にどう関わるのだろうか。そして、今ある何を残し、何を变化させるのだろうか。洛陽博物館で高度な技術を使い、唐三彩をはじめとする貴重な文化遺産を保管・展示していたように、医療・看護もさまざまな知識と最新の技術が融合しながら変化していくのだろう。看護の未来を築いていく友として、これからも関係が続くことを心から願う。

河南科技大学での国際交流

国際保健看護学 近藤麻理

今年度の国際交流では、2017年8月4日～8日の5日間、河南省洛陽市にある河南科技大学と第一附属病院での学会講演と視察などに参加させていただきました。河南科技大学での国際看護管理学会は、8月5日・6日の2日間にわたり第一附属病院で行われました。私は、6日午前「過疎地の高齢者の健康と生き甲斐につながる起業形態の考察 ―長野県・小川村の小川の庄の事例より―」をテーマに、第一附属病院の看護師や市内の病院看護管理者を対象に行いました。日本の高齢者が、自分の生まれ育った地域社会の中で、健康で元気にベンチャービジネスの担い手となっている事例をご紹介させていただきました。

私が2010年8月に、初めて河南科技大学を訪問した時から7年が経過し、洛陽市も大きく変貌したと感じました。以前は、旧市街地はそのままに、新区と呼ばれる新たに開発した市街地は、整備された道路と街路樹が異空間のように空々しく続いているだけの淋しい印象がありました。しかし、今年訪ねてみると、新区の道路沿線には高く新しいビル群が立ち並び、河南科技大学のすべての学部と学生寮もほぼ整備され、広い幹線道路から大学の門が立派に聳え立っていました。人の姿も往来も賑わい、活気付いていることがわかります。

大学の門をくぐると、右手に美しくかつスケールの大きな建造物の図書館が迎えてくれます。その国の大学の知は、ITが進んだ現在であっても、図書館の素晴らしさで推し量ることができるのではないかと思います。車でキャンパスを進むと、新しいキャンパスには、古い校舎から移設されたばかりの看護学科もありました。シミュレーターが並んでいる教室、心理学の箱庭療法の部屋など、施設内は以前とは比べ物にならないほど充実していました。

河南科技大学と東邦大学は、大学間協定を結び大学間での交流が行われています。さらに河南科技大学看護学科には、日本の看護系大学で修士号、博士号を取得された趙先生がおられ、国際交流の企画・運営を担うだけでなく、講演の翻訳と通訳も完璧にこなしてくださいます。両国では近年、良好とはいえない状況が続いていますが、そのことを理由に両大学の関係性が崩れる事はまったくありませんでした。大学人が人としてつながること、看護が心を通わせることの大切さをあらためて強く思いました。

古都である洛陽の文化に触れる機会は、とても貴重なものでした。世界遺産である龍門石窟、洛陽博物館などは、世界中からの見学者が訪れ施設や設備も新しく整えられていました。中国最古の仏教寺院である白馬寺の池には、蓮の花が美しく咲き誇っていました。洛陽市の花でもある牡丹は、4月～5月に咲くとのことで、次の機会をまた楽しみにしたいものです。今回は、7年前の洛陽市の様子と比べながらの5日間でした。北京からは高速鉄道（新幹線）にも乗車することができ、快適な旅の時間を過ごしました。今後の両国の更なる発展と交流を願っています。

2017年8月4日～8日の5日間、河南科技大学との国際交流に参加するため中国の洛陽市を訪問させていただきました。北京空港に着いた時は、建物の大きさ、土地の広さに驚き、また、洛陽に向かう長距離列車を待つ間は、中国の方の自由さや力強さを感じました。日本では感じられない雑多なエネルギーが充満しており、自身も不思議と気持ちが高まっていきました。洛陽に着いたのは午後8時頃でしたが、趙傑剛先生が温かく出迎えて下さいました。

滞在中は、国際看護管理学会への参加、河南科技大学・河南科技大学第一附属医院新区病院の見学、洛陽博物館・竜門石窟・白馬寺の見学をさせていただきました。特に印象深かった学会参加、大学・病院見学について報告します。国際看護管理学会では、小林先生、近藤先生、横井先生の講演を拝聴し、私は「退院支援の実践と看護師の共感および倫理的行動」について発表しました。社会制度や価値観の違いがある中、自身の発表内容がどこまで受け入れてもらえるのか不安でしたが、趙先生が通訳しながら社会制度の部分を補足して下さい、改めて趙先生の博識さに感銘を受けました。また、発表後、史素玲先生から良いテーマだったと思えますよと声を掛けていただき、看護には国や文化を越えて共通するものがあることを実感し、とても嬉しかったです。

河南科技大学の見学では、看護学科の実習室などを見せていただきました。シミュレーターがずらっと並んでいる部屋や、下から漢方の蒸気が出る東洋医学のベッドがある部屋などを見学し、中国でもシミュレーション教育が注目されていることや、中国ならではの医療があることを知りました。また、夏休み中だったのですが、学内で看護技術大会の練習をしていた看護学生とお話しすることもできました。看護技術大会とは、国中で看護技術の美しさを競う大会のようで、趙先生は日本と違っていますよねと説明して下さいました。優勝する自信はありますかという質問に、ガッツポーズで答えた学生の真っ直ぐな瞳がとても印象的でした。また、将来どこで働きたいですかという質問に、皆ICUなど最新医療の最前線で働きたいと話していましたが、高齢者看護学に興味はありますかという質問には、祖父が不確かな健康知識で生活しているので自分も何か出来れば良いと思うと答えた学生もいました。中国では高齢者専門としての学問があまり確立されていないと聞いていたので、看護師として高齢者の生活に関心を持つ学生がいることを知り、嬉しくまた頼もしく感じました。

河南科技大学第一附属医院新区病院の見学では、医師がパソコンを使用し、地方の患者様の問診をしている場面を見せていただきました。広大な土地を持つ中国では医療の地域格差が一つの課題であり、ITを駆使しそれに対応する姿に中国の吸収力や行動力のすばやさをまざまざと感じました。また、花柄のナース服を着て点滴を作成している若い女性がおおり、どのような職種の方なのかと考えていると、趙先生に花柄のナース服を着ているのは看護学生であること、看護学生が着るナース服には模様があり、その模様は毎年変わることを教えていただきました。実習中であっても患者様の安全のため、教員や実習指導者の見守りのもとケアを行っている本学の学生と比べ、学生という立場で様々な体験をすることが許されている環境にとっても驚きました。

短い滞在でしたが、臆せず、一生懸命何かを吸収しようとする中国の方々の姿勢にとっても感銘

を受け、私も見習わなくてはと感じました。看護教員として日々学びを深め、国が違う方々とも看護について自信を持ち意見交換ができるよう精進してまいります。滞在中は、趙先生をはじめ多くの関係者の方々から歓迎を受け、大変お世話になりました。以前本学に研修に来られた方々とお会いする機会もあり、本学に来られた方々が日本滞在中のお話を嬉しそうにされる場面も多くありました。私のような者でも歓迎していただけたのは、東邦大学と河南科技大学の長い年月をかけた信頼関係によるものと実感しております。このような交流を築いてこられた国際交流委員会の皆様に深く感謝申し上げます。また、このような交流のために自身ができることを考え、行動していきたいと思えます。



写真3 河南科技大学看護部関係者のみなさんと

4. 交流風景

写真4 小林教授の講演の様子



写真5 横井教授の講演の様子



写真6 村田助教の講演の様子



写真7 近藤教授の講演の様子



写真8 看護管理学会の始まりの様子



写真9 看護学部生との交流



国際交流委員会

委員長	近藤	麻理
副委員長	市山	陽子
委員	坂本	なほ子
	東	園子
	遠藤	亜貴子
	平田	松吾
	小林	寅喆
	柳平	照美

2017年度 東邦大学看護学部・河南科技大学看護学部

国際学術交流プログラム 訪問報告書

発行日 2018年3月31日

発行 東邦大学看護学部看護学科 国際交流委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03 (3762) 9881